

分科会報告

小規模校の現状 ～教育現場の現在と課題～

阿部 光一（宮城県丸森町立耕野小学校）

はじめに

昨年7月に分科会の発表を願い出て、無事に許され、いざ発表資料を作成しようとしたら、公私ともに大きな災いが襲いかかってきた。

私的には、腎臓に腫瘍が見つかり手術することに、公的には台風19号による丸森地区の甚大な被害。学校は幸いにも校庭に土砂が流入と一部敷地の陥没程度ですんだが、それでも学校再開には数日を要し、現在（2020年1月）も校庭は使用できない状態にある。

まだ災害の爪痕が多く残るなか、一度は発表を辞退しようとも考えたが、管理職の励まし、教育会会長の田中先生や事務局の方々の励まし、入院が発表日の翌週に決まったこと等もあり、無事に発表にこぎつけることができた。

私は再任用3年目で、昨年4月に耕野小学校に異動し、小さな学校ながら、地域との繋がりを大切に、独自の教育方法を実施していることに感銘を受け、現状を紹介したいと考えた。現場の生の姿を知っていただくことで、何かを感じていただければ幸いである。

母校の教育会分科会で発表機会を与えていただいたこと、励ましのお言葉をいただいたことに感謝し、お世話になった先生方、聴講していただいた学生や先生方に深く御礼申し上げます。

1. 丸森町と耕野小学校

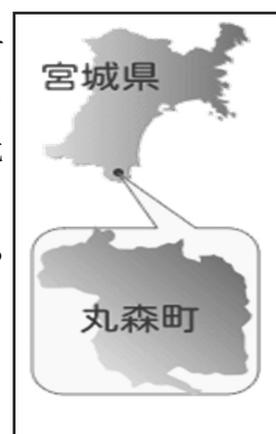
丸森町は宮城県の南端に位置し、南西は福島県と隣接している。町の北部を阿武隈川が貫流し、その流域と支流河川（内川・雉子尾川）の流域一帯が平坦地を形成しているものの、南東部は500m内外、北西部は300m前後の阿武隈山脈の支脈で囲まれた盆地状の町である。町の総面積は270.30k㎡で仙南広域圏の約17.7%、宮城県の約3.8%を占める。

1954（昭和29）年に2町（丸森・金山）と6か村（筆甫・大内・小斎・館矢間・大張・耕野）が合併し、丸森町となった。

1950（昭和25）年の国勢調査での人口が過去最大で29,898人であった。2020年1月現在の人口は13,292人で、最大時の半数以下となっている。65歳以上の割合が3割を超え、合計特殊出生率も1.34（平成25年）と全国平均を0.1程度下回り、少子・高齢化が進む過疎の町である。

耕野小学校は、1873（明治6）年3月に宮城県で2番目に開校した小学校である。

令和元年度は、児童数7名、学級数3（複式学級2、特別支援学級1）となっており、2年生と6年生は在籍0である。



丸森町ホームページより

丸森町の小学校は、各地区に8校ある。面積が広いことから、それぞれの学校に分校もあったが、平成のはじめまでにすべてなくなっている。

中学校は1962（昭和37）年に2校が統合し、2012（平成24）年にすべての中学校が1つに統合され、各地区の生徒はスクールバスを使って登校している。

2. 特色ある教育活動

【令和元年度 耕野小学校教育目標】

ふるさとに学び

夢や希望をもって

未来を切り拓く子供の育成



上記の教育目標実現に向けて、様々な取り組みを行っている。

(1) 学級編成・指導体制

1年生2名、3年生1名、4年生1名、5年生2名、特別支援学級1名（4年・肢体不自由）、合計7名の在籍である。1・3年と4・5年が複式学級で3学級である。

複式を解消し学力向上のために、3年生の国語と算数には校長・教頭が担当し、3年理科と4年の理科・社会は特別支援学級が担当し、体育は全校で行っている。

(2) 地域との交流

「子どもも教師も地域から学ぶ!!」ということから、地域を巻き込んで様々な取り組みを行っている。

〈たけのこ掘り〉



耕野地区はたけのこの産地である。学校近くにも竹林があり、そこで毎年収穫を行っている。

今年度は育成が遅れ、用務員さんの竹林で最初に行い、その後に学校近くの収穫を行った。

それぞれ持ち帰るだけでなく、近くの作業場で放射能検査をしてもらった後、近くの地場産品販売所で売ってもらうこととした。

上学年は慣れているが、1年に1回なので、地区在住の業務員さんや教育支援員さんに掘り方の指導を受けながら行った。

〈合同運動会〉

在籍7名なので、通常の学校だけの運動会だと1時間もかからずに終わってしまう。また、3・4年生は1名ずつなので、徒競走などは成り立たない。在籍数が減少した数年前

から、地区の要望もあり、合同で実施している。

徒競走は1年生2人で、3・4年は3人で走り、特別支援学級の児童は左足に麻痺があり、十分に走れないため、ハンデをつけて走った。5年生は3人（運動会の時点では山村留学生在が1名在籍していた）で走り、計3回実施した。



小学校単独種目としては、太鼓とソーランを披露し、綱引きやリレーは保護者や地区民も加わって行われた。

校庭いっぱいの人となり、地区対抗ということもあり、和やかさの中にも秘めた闘争心が見えた。これだけの地区民が結集する機会はほとんどなく、子どもたちにとっても地区民にとってもかけがえのない行事になりつつある。

〈柿の販売〉



たけのこと同様に耕野地区の名産が柿である。そのままではなく、“ころ柿”，いわゆる干し柿にして販売した。

秋に収穫し、皮むきをして干し、袋詰めして仙台に行って販売活動をしてきた。

今年度は、被災の影響で数ケース分しか収穫できなかったが、昨年度は、軽トラックに積みきれないほど収穫し、皮むきも含めて、地区の方々にご協力いただいていたことができた。

高学年の子どもたちは、総合的な学習の時間を使ってその過程をまとめ、発表することができた。

〈こうやっこ学びのフェスティバル〉

通常の学校で行っている学習発表会である。通常は、保護者に見ていただくのであるが、本校の保護者は4家庭だけである。そこで、日頃からお世話になっている方々もお招きし、感謝の意味も込めて地区に開いた学習発表会を実施している。



今年度も10月に予定していたが、被災の影響で1月に延期された。

大きな学校だと1つの劇や歌等に出て終わりだが、何しろ7人しかいないのでフル活動

である。今年度の予定は、

第1部 生活・総合発表 1年「“えだまめ”紙芝居」3年「ぼくのお蚕さん」 4・5年「こうやっ子四季弁当」
第2部 子ども太鼓～よさこいソーラン～群読～合奏～合唱～ダンス披露

第1部は学年毎であるが、第2部は1～5年生全員である。一部は4月から練習を重ねてきた。5種類以上をこなすので始まりを早くしないと間に合わないのである。

いつもお世話になっている地区の方々もたくさんおいでいただき、子どもたちにとってはそれも励みになっている。

(3)他校との交流



中学校に進むと一つになることから、修学旅行は全町で実施している。音楽発表の場である“緑の森音楽祭”，特別支援学級の交流会等も全部の小学校が一緒に行っている。

特定の活動では、近隣の館矢間小学校に出向き、一緒に授業を受けたり、活動したりしている。5年生の

蔵王宿泊学習も一緒に行っている。

(4)国際交流

丸森町は、アフリカ・ザンビア国との交流事業を行っている。

JICAがザンビア国の農村振興を支援する協力を行っており、この支援の実施のために、丸森町が様々な協力している。

丸森町でホームステイをしながら地域づくりの研修を行ったり、現地での技術指導のために丸森町の各分野の専門家にザンビアへ出張し、養蜂、キノコ栽培、農産物直売所等についての指導もしている。



たけのこや干し柿など地元特産を使ったユニークな商品開発を展開している直売店や、川の流れを利用した伝統的な水力製粉施設「がったり」、丸森の自然を生かした養蜂園やきこの園などを視察した。その折に耕野小にも来ていただき、交流することができた。

(5)栽培活動

季節毎にいろいろな野菜の栽培活動を行っている。

米，サツマイモ，ジャガイモ，里芋，大根，白菜など。今年は秋に麦も植えた。また、

学年毎に花やミニ野菜の栽培も行っている。



植物は、種や苗を植えるのが始まりだが、水をやったり、除草したり、間引きしたりと、お世話もかかせない。しっかり手をかければそれに答えてくれる。その過程を通して豊かで優しい心を培ってくれていると思っている。

収穫したものは、自分たちで食べるのはもちろんだが、地区の販売所で売ってもらったり、学びのフェスティバルの際に食べていただいたりしている。

(6)丸森スタンダード

8つの小学校から1つの中学校に進むので、それぞれの学校のやり方で授業を進めたりしていると、中学校で困るという意見があった。すべてを同じにすることは困難なので、国語と算数に限って、授業の進め方やノート指導の仕方を話し合い、町内で統一した。他教科についても、それに準じて授業を進めている。



丸森町公式 facebook より

(7)その他



2019年12月26日、東京のマイナビBLITS赤坂に行って「第7回全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクール」に参加してきた。宮城県では2校だけの参加だった。

また、ビデオ応募だが、「第31回ミュージックベル合奏コンテスト」にも、ハンドベルで“戦場のメリークリスマス”で参加する。

3. 課題

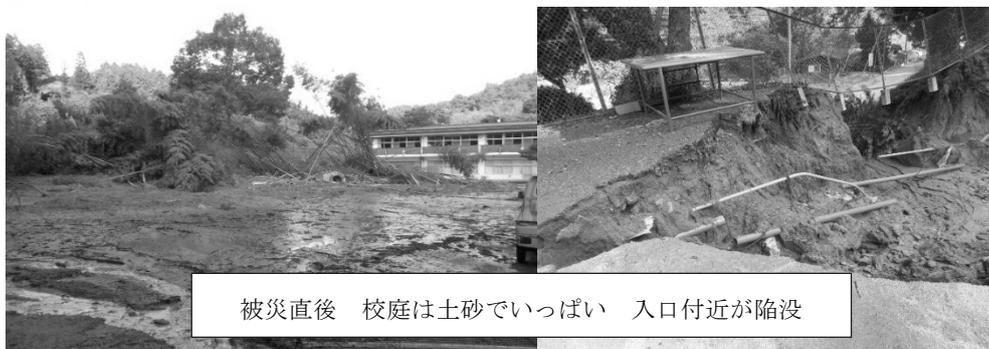
少人数であるがために小回りがきくということもあるが、人的構成が変わらず、他との比較ができないという課題もある。

職員の立場からは、大規模校と比べてほとんど事務量は変わらず、校務分掌が多い等がある。

丸森町では、小学校統合の動きも出始めた。経済的な合理性だけを追求すれば、統合は必然だろうが、それだけではすまされない部分がある。地域の中心だった小学校がなくなることでの地域活動の減少, 児童の移動手段, 移動の負荷に低学年の体力が耐えられるか, 保護者の負担増などである。

4. 被災状況

昨年 10 月 12 日から 13 日にかけて、台風 19 号の被害によって、丸森地区は甚大な被害を蒙った。耕野小学校の被害状況を一部紹介する。



5. まとめ

教師は、今だけを見て、教科書だけで教えるのが仕事ではない。その児童・生徒が健全な大人（人間）になるために、今、何が必要かを考えながら日々過ごしている。

本稿を読み、山の中の小さな学校で日々奮闘している姿を思い浮かべていただけたら幸いである。

参考

- ・丸森町ホームページ
- ・丸森町公式 facebook
- ・平成新訂版 丸森町郷土史年表（丸森町教育委員会）
- ・平成 26 年度 丸森町子育て支援のまちづくり推進計画（丸森町 子育て支援課）